

ドンキホーテ出だし

サンチョ「ああ…今の作品、良かったですねえ。『大おばさん』。やはり、若い2人の恋物語というのは、応援したくなる…それに比べて、こっちはねえ…

あ、申し遅れました、あっしの名前はサンチョ。スペインの片田舎、ラマンチャに住むしがない農夫でございます。

しかし（ここらでドンキホーテ出てくる）うちの近くに住む貧しい貴族がいたんですが…あ、この人。

この人がまずかった…騎士の物語が大好きで大好きで！挙句に騎士物語の読みすぎで、自分もかっこいい騎士…ナイトだと勘違い！ま、ちょっとヤバい人です。」

ドンキ「サンチョ、何か言ったか!？」

サンチョ「あ、いえいえ…で、ついには自分をラマンチャの遍歴の騎士、ドンキホーテと名乗り、あたしを家来にして、冒険の旅に出ることにしたってわけ。こっちゃんたらんよ…」

ドンキ「しかしサンチョ、騎士にはまだ足りぬものがある。必要なのは、忠誠を誓う美しい姫君だ!」

サンチョ「へっへ…美しい姫だったって、ここらにゃそんな良い女はねえ…」

♪ドルシネアの歌、始まる

風車の前のところ

ドンキ「サンチョ、よくわかった…お前も、女には苦労しとるんだな」

サンチョ「わかって頂けます？」

サンチョ、いそいそと

サンチョ「はい、じゃ、もうね、女に唆されて、盗賊から首飾りを取り返すなんて無茶苦茶はやめて。はい帰ろ帰ろ」

ドンキ「だがドルシネアは違う！」

サンチョ「聞けよ人の話！」

ドンキ「ドルシネアは百万人に1人の女性、騎士はそんな女性のためなら命を賭ける！」

サンチョ「あんたそもそも騎士じゃないでしょーよ！」

ドンキ「ややっ！そんな事より、見ろ！サンチョ！」

サンチョ「聞けよ人の話！」

背景、風車映す

ドンキ「あそこに、巨人が！！」

サンチョ「…あれは、風車ですねえ…」

ドンキ「いや、私にはわかる。あれは風車を装った化け物だ。巨人が風車のふりをしておるのだ！」

サンチョ「いよいよ、おかしくなってきたね…ほんとに…」

ドンキ「巨人よ！このドンキホーテの目は誤魔化せぬ！良いか、今なら見逃してやろう、我が前から立ち去るのだ！」

♪風車の歌

首飾り取り戻しにきた時の口上

サンチョ「やあやあ、遠からんものは音に聞け！近くば寄って目にも見よ！こちらにおわすお方をどなたと心得る！ラマンチャの遍歴の騎士、ドンキホーテなるぞ！！

そして、従うのは従者サンチョなり！！」

ドンキ「…ちょっとさ、いい？」

サンチョ「はい？」

ドンキ「従うのは、従者サンチョ、って、何か言い回しおかしくない？」

サンチョ「そうですかね？」

ドンキ「うーん、何か頭痛が痛い、みたいなさ…ちょっと違う気がする」

サンチョ「良いんですよ、あたしが気に入ってんだから…邪魔しないで、いいとこなんだから」

ドンキ「わかった」

サンチョ「えーと…もう、途中からだ口上出てこないじゃない！

とにかく！

ラマンチャの騎士、ドンキホーテの想い人、ドルシネア姫の奪われし首飾りをいまここに、取り返してまいった！」

♪ドルシネアの歌